

## 01 卒業設計

開講年次：学部4年生

## 神戸大学建築卒業設計賞 大賞

## 未来への憧憬

## —コモンズを通じてつくる、退院後の白血病患者の居場所—

木崎理沙（末包研究室）



身近に、白血病を患った人がいる。白血病の患者は、退院してから完全に回復するまで、他の一般でいうがんなどよりもかなり長い期間を要する。彼は退院してからも部屋にずっといなければならず他の人の関わりが薄いままである。そんな様子を見て、退院後の白血病患者が社会復帰までに過ごせる居場所が必要なのではないかと考えた。患者はコモンズを通じて、回復とともに少しずつ社会との関わりを取り戻していく。



## 神戸大学建築卒業設計賞 木南賞

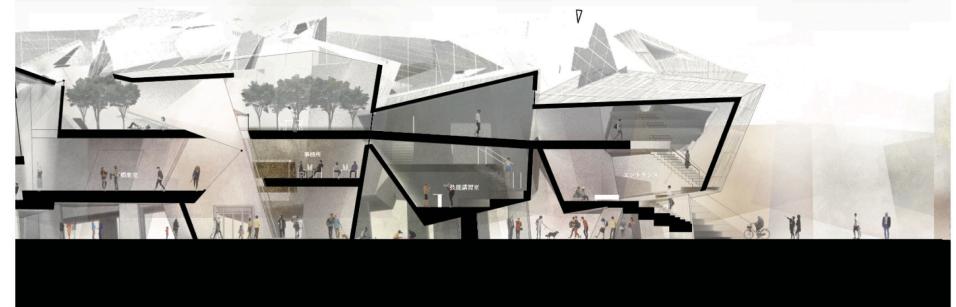
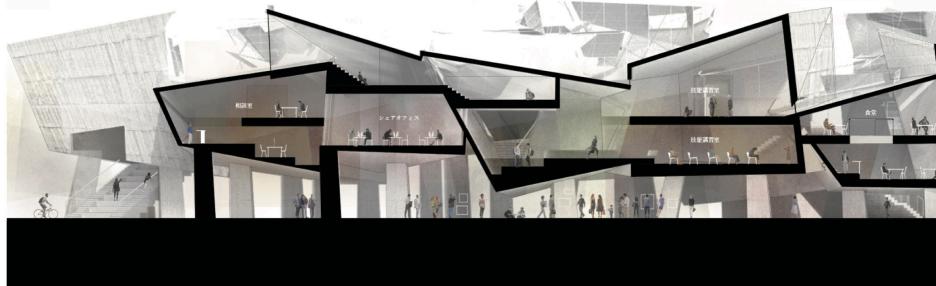
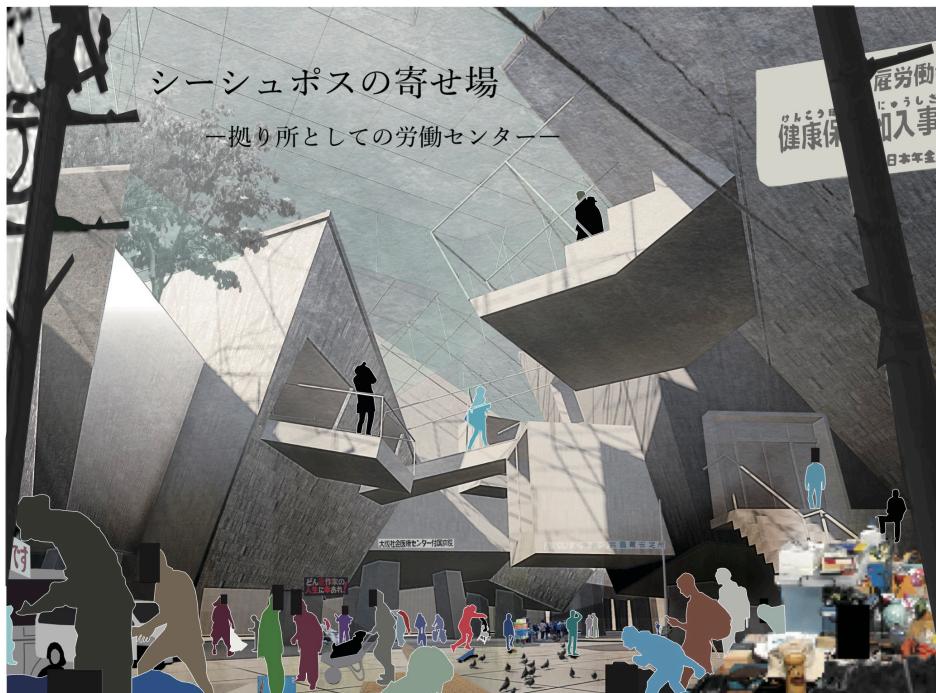
### シーシュポスの寄せ場

#### —拠り所としての労働センター—

山莊日捺子（楓橋研究室）



日雇い労働者の街、あいりん地区。新世界、天王寺動物園など、多くの市民が憩う場所から目と鼻の先でありながら、現在でも住所不定の日雇労働者、路上生活者が多く居住している。しかし、あいりん地区の象徴として、寄せ場として、日雇い労働者の居場所として機能してきたあいりん総合センターが2019年に閉鎖され、あいりん地区にも再開発の波が押し寄せてきている。日雇い労働者の方々の居場所を守り、新しい働き方、生き方へ繋げる労働センターを提案する。



\*右上の島瞰図、右中の平面図は国土地理院基盤地図情報を加工して作成

## 神戸大学建築卒業設計賞 優秀賞

### STREET HACK

#### 一道路を解いて地域にみちをひらいた小学校の提案ー

松岡絢加（光嶋研究室）



人口が増加し続ける現代都市において道路及び自動車は物流利便性と引き換えに、私達からコミュニティ形成の場を奪った。そこで近隣住区を分断する道路のあり方を捉え直し、地域住民の社会的交流の居場所を提供する空間を併せ持つ未来の小学校兼街路をデザインし、新しい建築と都市の豊かな可能性を提案する。本提案では、建築と大地は有機的な一体として大地に存在するという考え方の下、住民主体で自由にみちで振舞いーストリートをハックしーそれらが集積した風景がみちに現れ、分断していたコミュニティ形成の場を取り戻すことを目指す。



## 神戸大学建築卒業設計賞 優秀賞

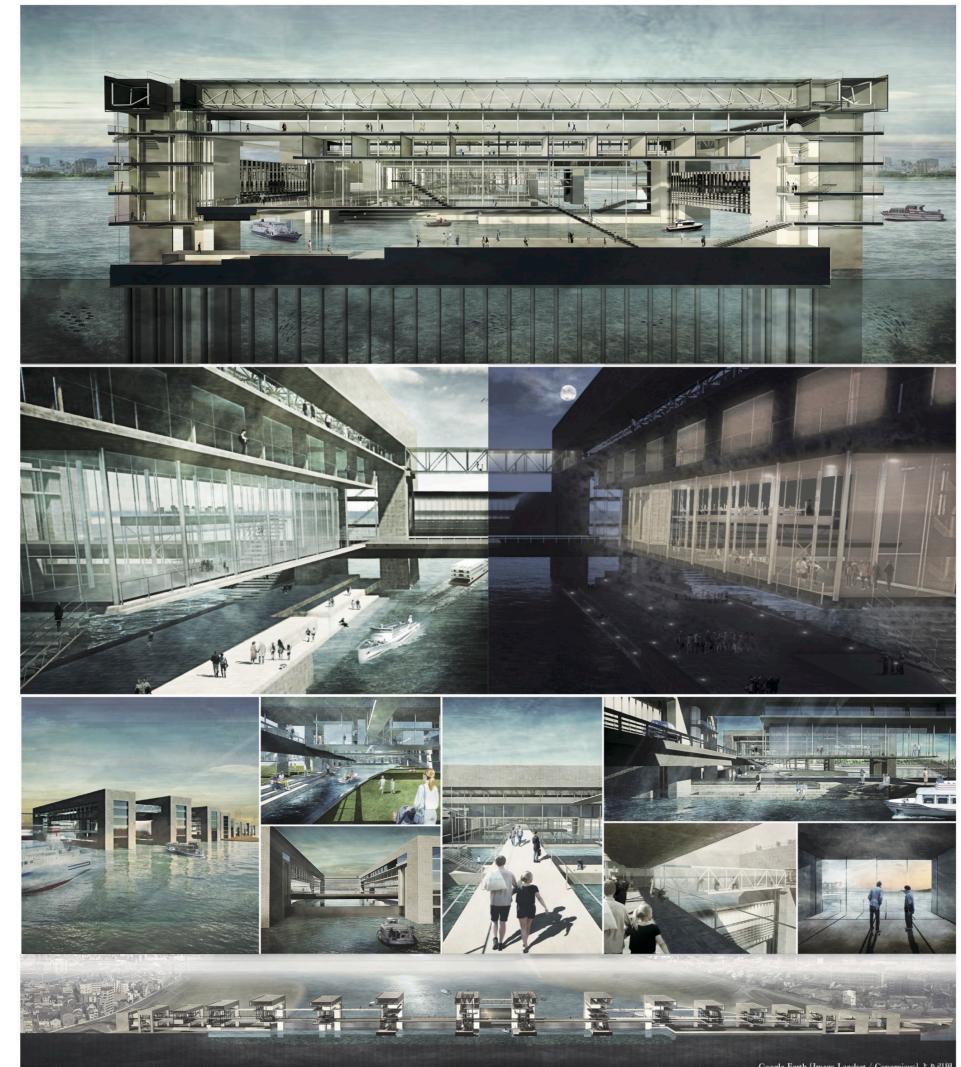
### 繫の廻閑

#### 一淀川大堰における舟運拠点の提案ー

二宮幸大（末包研究室）



関西を横断するように流れる淀川。淀川の舟運はかつて大阪と京都を繋ぐ人々の生活に欠かせない交通手段だったが、陸上交通の整備により衰退してしまった。そこで、現在の淀川大堰の場所に閘門を含む複合施設を計画する。これまで大堰により分断されていた淀川上下流間の航路を復活させるとともに、馴染みのなかった土木と私たちの生活が身近になる場を提案する。この場所を起点として、建築や土木、舟運、そして人々が繋がり合うことで、淀川沿川のさらなる活性化を目指す。



\*バースの路景に一部 Skalgubbar (www.skalgubbar.se) のものを使用

## 神戸大学建築卒業設計賞 優秀賞

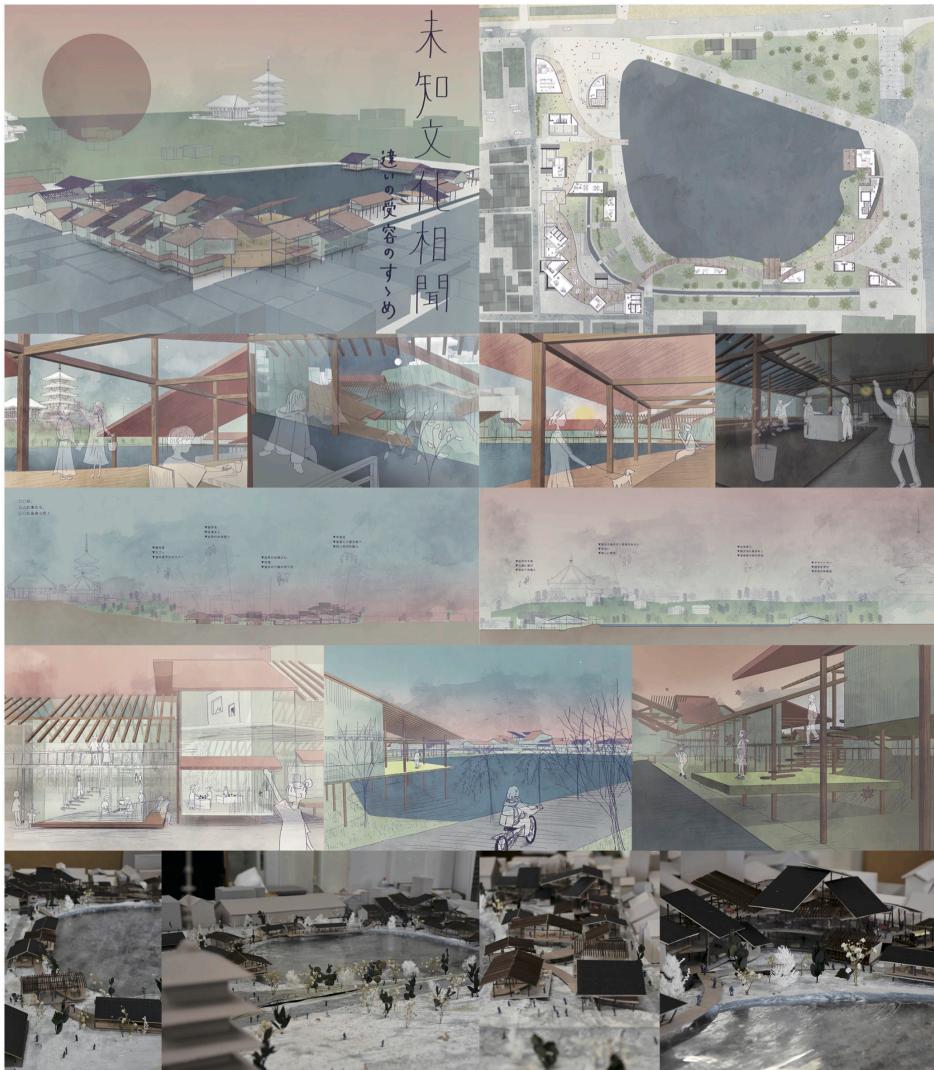
### 未知文化相聞

#### 一違いの受容のすゝめー

米光葵（楳橋研究室）



私の地元である奈良県でも、少子高齢化の加速により国際化が進む。しかし未知の文化を持つ相手とは接触機会がないと、どうしても偏見を持つてしまう。「他を知り、ただ受け入れる」ために、語学学校、寮、カフェ、アトリエなどの多様なアクティビティを奈良市にある猿沢池の周りに分散させ、建築に無目的な人と目的のある人の偶発的な出会いを促す。また、日本建築の縁側や土間のもつ内外の境界線の曖昧さを用いて、使用用途の限られる建築の空間的な分断を緩やかにすると同時に、周辺の柔らかい自然や歴史的な文化との調和を図る。



## 2021年度卒業設計発表会

### 審査講評

末包伸吾  
神戸大学大学院教授 審査委員長



2021年度の建築卒業設計賞の審査は、2022年2月11日に神大会館六甲ホールで、卒業設計発表会に引き続いた選考会において実施されました。選考会は、選考委員長を末包、司会を栗山が担当し進められました。本年度の卒業設計発表会発表作品は30作品で、発表および質疑応答の後、まず、選考委員による一次投票の結果、佳作以上に相当する賞選考対象作品として11作品が選出されました。

選出された11名の学生によって、それぞれ3分を上限とした追加の説明がなされたのち、選考委員からの質疑と該当する学生からの回答・補足説明がありました。これらを経た上で、大賞・木南賞を選定するために、選考委員一人1票の記名投票を行いました。

その結果、この投票で最多得票を得た木崎理沙君の作品を大賞候補として選出し、ついで次点の山荘日捺子君の作品を木南賞候補として選出し、それに統合得票を得た松岡絢加君、二宮幸大君、米光葵君ら3名の作品を優秀賞候補としました。さらに1次選考で得票を得た、森健太君、岩橋美結君、松下沙絵君、西村涼君、奥村紗帆君、赤川舞花君ら6名を佳作候補として選出しました。そして後日、これらの候補作品は、建築学教室の教室会議で正式に各賞に決定しました。

大賞となった木崎理沙君の作品「未来への憧憬 -コモンズを通じてつくる、退院後の白血病患者の居場所-」は、関西医科大学・同附属病院に程近い淀川沿いに、退院後の白血病患者のための施設を提案するものです。退院後とはいえ他者との接触が厳しく限定される状況にある白血病患者のために、その回復状況に合わせ、初期・中期・後

期の大きく3つのブロックを設定しています。各ブロックはコモンを中心個室が配される点では一貫していますが、回復状況に応じて、屋根を含めた曲線を用いて多様な空間を創出する全体ボリュームや、コモンと個室との関係、内部と外部との関係などに変化をもたらすとともに、個室に至るまで丁寧に設計し、また詩的な空間性を示し得たプレゼンテーションもあって、そして、何より作者の実兄が白血病であられたという自身の経験を踏まえ、社会でこうした空間が求められていることを示し得たものとして高い評価を得たものです。木南賞の山荘日捺子君の「シーシュボスの寄せ場 -拠り所としての労働センター-」は、あいりん地区において、現状の機能の確保とともに、新たな労働形態への対応や労働者の交流等を可能とする施設です。作者によれば、シーシュボスとは、山の麓から山頂まで岩を運び、転がる岩を追いかけて山を降りることが繰り返されることが、寄場での活動を象徴化しているという認識に伴うものです。社会的に重要な課題に対して高い造形力で説得力ある魅力的な展開とプログラムが提示されていることから評価を得たものです。

今回もまた選考会を通じて感じることは、作者自身で、場とプログラムを設定し、空間化することが求められる卒業制作では、計画、造形とその表現のみならず、その作品がもつ未来を見据えた社会的な意味に加えて、着想にいたる作者の動機、展開の明確さや、作品の意図を強く人に伝えることも大切であるということです。特に近年強く思うのが、構想に新たな像を見据えた斬新で大胆なものが少なくなっていることです。これから卒業設計をめざす学生のみなさんは、丁寧な計画を心がけること同時にこうしたことにも考えを巡らせてほしいものだと強く感じた今年の選考会でした。

### 選考委員

末包教授を審査委員長とし、選考会選考委員は計画系の教授4名（末包、中江、北後、山崎）と、准教授4名（栗山、光鶴、近藤、楳橋）、ならびに選考会参加を受諾いただいた非常勤講

師12名（島田陽、山隈直人、深川礼子、竹口健太郎、中江哲、本田孝子、小幡剛也、吉武宗平、八木弘毅、近井務、大谷弘明、向山雅之）の計20名とした。選考会はこの20名で行われた。

### 得票数一覧

氏名	卒業設計題目	得票数	最終結果
木崎理沙	未来への憧憬 -コモンズを通じてつくる、退院後の白血病患者の居場所-	5	大賞
山荘日捺子	シーシュボスの寄せ場 -拠り所としての労働センター-	4	木南賞
松岡絢加	STREET HACK -道路を解いて地域にみちをひらいた小学校の提案-	3	優秀賞
二宮幸大	繋の廻閑 -淀川大堰における舟運拠点の提案-	2	優秀賞
米光葵	未知文化相聞 -違いの受容のすゝめ-	2	優秀賞
森健太	ミチへの遭遇 -神戸三官における都市と自発的体験の媒介地-	1	佳作
岩橋美結	今日はもうすぐ雨が降るらしい -都心市街地での水循環を活かした日常の提案-	1	佳作
松下沙絵	樹上都市 -森を遷移させるあたらしい集住地-	1	佳作
西村涼	横濱観察譚 -野毛町の構成言語を用いたみなとみらいを観察する劇場の提案-	1	佳作
奥村紗帆	消えた轍に足跡を残す	0	佳作
赤川舞花	茶源郷 -和束町における茶の生産と人々の暮らしを結ぶ地域拠点-	0	佳作

## 神戸大学建築卒業設計賞 佳作

### ミチへの遭遇

—神戸三宮における都市と自発的体験の媒介地—

森健太（末包研究室）



現代の情報過多社会においてはメディアによる知識・体験の偏りによって人々が未知なる認識に出会いすることが難しくなっている。受け取る情報の自発的な選択を初めとし、交流や創造活動のための都市における人・まちの拠り所を提案する。

多様なまちが粒状にひしめく神戸三宮において周囲の様々なまちの要素を集積し、受信・選択・交流・創造・発信を介して人々の物事への関わりを自発的なものとすることで、都市の空白だったこの場所は人とまちを媒介する新たな都市のメディアとなる。



\*左の航空写真はGoogle (Image©2022 Digital Earth Technology, Maxar Technologies, Planet.com) より引用

### 今日はもうすぐ雨が降るらしい

—都心市街地での水循環を活かした日常の提案—

岩橋美結（栗山研究室）



どの時代においても、雨は私たちの生活と切り離せない関係にある。生活が便利になってきた一方で、雨だけはいまだにコントロールできないものであり、現代人の生活に“変化”を与えるものである。時々刻々と社会や地球環境が変化する今、そしてこれから先、私たちはどう雨と関わっていくべきなのだろうか。雨という天気は空から水が降ってくるとい私たちの一番身近な異常であると考える。建築を通して雨の存在をもっと感じて地球に耳を傾けてほしい。



### 樹上都市

—森を遷移させるあたらしい集住体—

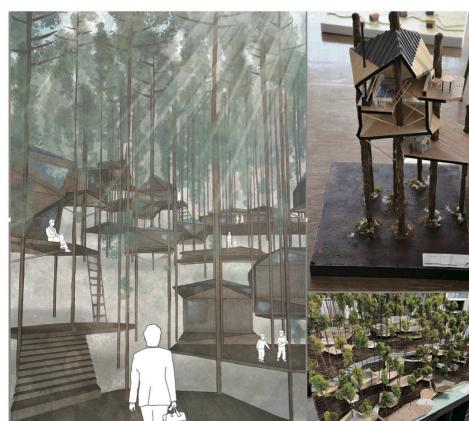
松下沙絵（楳橋研究室）



吉野杉で有名だった奈良県天川村。

現在は林業が衰退し、急激な過疎化と密な植林による暗く、單一な森だけが残されている。

そこで、生きている木をそのまま建築の柱とし、間伐周期である15年で建設、解体を繰り返し、森を遷移させながら都市全体が移動する木の上の集住体、樹上都市を提案する。



建設のために放置された木を伐採し、森に光が入り、新しい種が芽生えることで、やがては天川村一帯の森を混生林へと遷移させていく。

## 神戸大学建築卒業設計賞 佳作

### 横濱観察譚

—野毛町の構成言語を用いたみなとみらいを観察する劇場の提案—

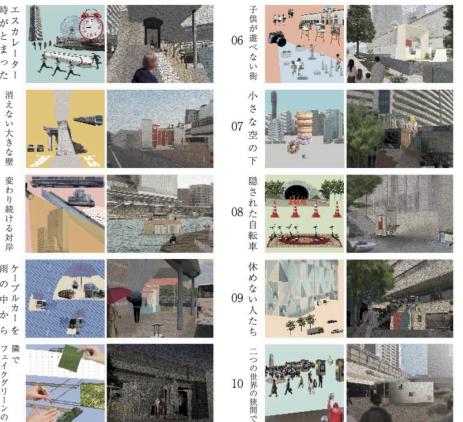
西村涼（光嶋研究室）



横浜・みなとみらい地区を観察すると、トップダウン的で観光客優位な街であるが故の問題が潜んでいる事が分かった。

みなとみらいを観察し見つけた問題を、隣接する下町・野毛町を観察して見つけた野毛町の構成言語（「隙間の活用」「イヨウ（よりく暮らすために住民自らが住宅に付け加えたものを、本提案の中でこの様に名付けた。）」「劇場」）を用いて解消する。

設計した10個の劇場は野毛町を思わせる下町的な空間となり、トップダウン的みなとみらいの風景を懐疑的に観ると共に、みなとみらいで生活する人に新たな価値観と住民自治の可能性を観せる。



### 消えた轍に足跡を残す

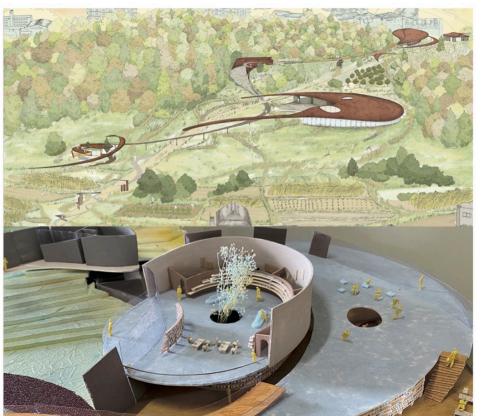
奥村紗帆（光嶋研究室）



ニュータウンと元ある街では知恵や歴史の共有が行われず、分断が生じている。

その分断を解く為、境界の山間道路600mのコンクリートを全て剥がし、既存道路に絡みつくように建築を作り、更に建築から人々が道無き道へ歩き出すにつれて、歓びが生まれる。

そうして道は長い年月をかけ、住民自らの歩くという行為によって、5つの建築は1つの美しい風景へと変化し、両者の分断は解かれ、失われていた「先人の想いの継承」をランドスケープ全体を通して残すことができる。



### 茶源郷

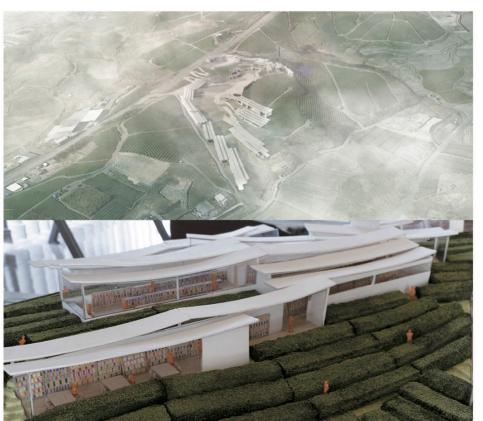
—和束町における茶の生産と人々の暮らしを結ぶ地域拠点—

赤川舞花（末包研究室）



宇治茶の主産地である京都府和束町。町全体に茶畑が広がり、美しい景観を誇る一方で、茶農家の高齢化や後継者不足が問題となっており、このままでは美しい茶畑景観が失われてしまう可能性がある。

そこで、茶の生産と人々の暮らしを結び、和束町を「茶のまち」として確立するための建築を提案する。観光のエリアと暮らしのエリアの境界となっている南北を茶畑の丘に囲まれた敷地で、茶農家、市民、観光客の交流が生まれる。茶畑と自然の地形の関係を屋根と平面の関係に用いることで、周囲の茶畑景観に溶け込みつつ、新たな風景を生む。



\*上の航空写真はGoogle Earth (Image© Landest/Copernicus) より引用

## 神戸大学卒業設計 作品紹介

### 堤防空間の再考

藤原一樹（北後研究室）



### 何気ない風景から生まれる居場所

—兵庫県三木市別所小学校下石野分校の読み解き—  
前田菜摘（栗山研究室）



### 埋没した記憶

—鹿児島県桜島に表す避難壕型メモリアルの提案—  
甲斐凜生（栗山研究室）



### 自然に沿う

—高知県黒潮町における宿泊機能付き道の駅の提案—  
藤目承太郎（北後研究室）



### 木屋町キネマスタジオ

—京都における映画文化保全の空間—  
高垣翔（栗山研究室）



### Bay Front Linkage

—多重免震構造を用いた都市防災ヘッドクォーター—  
周賀人（藤谷研究室）



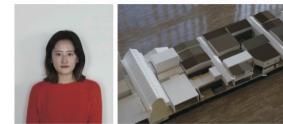
### VERTICAL PROMENADE

—環境応答型超高层モデル—  
山根駿二（横橋研究室）



### 結んで開いて

—灘中央市場でつながる多様な人とその暮らし—  
加藤秋（山崎研究室）



### 蘇生する欠片

—六甲アイランドにおけるまちに聞いた瓦礫破砕施設—  
中川達哉（栗山研究室）



### Hashed Community

—それぞれの居場所を求めて—  
丸山拓弥（北後研究室）



### 重層都市今井

—暮らしに溶けこむ医療と福祉のまちづくり—  
藤井建人（山崎研究室）



### 石の蒸溜所

—大谷石採掘跡地のコンバージョン—  
森祐樹（横橋研究室）



### かさなる、ふるさと

—地域内2箇点居住から移住へ—  
中谷友洋（北後研究室）



### ■卒業設計発表会の様子



### ひとつなぎ

—個島のふれあい公園と防災船着場における日常と非常日の連続—  
倉知直生（中江研究室）



### 遙る壁

—高速増殖炉もんじゅの弔い方—  
眞下健也（光嶋研究室）



### 回顧

—大久野島の戦争記憶と未来の私—  
大村ゆかり（山崎研究室）



### Archi FOREST

—伊丹空港跡における生態系の再構築計画—  
本山有貴（光嶋研究室）



### 道頓堀アトリウム

—都心に挿入される「あかるい」創造空間—  
矢野文隆（横橋研究室）



### 集散住宅

—流動しながら集まる新たな暮らし方の提案—  
足立頼（光嶋研究室）

